

## 労働災害発生状況

表1 港湾貨物運送事業における労働災害発生状況の推移 (単位:人)

年 別	災 防 計 画	1 死傷件数 (厚生労働省調べ)		2 死傷件数 (協会調べ、会員事業場のみ)	
		休業4日以上	死亡災害	休業4日以上	死亡災害
昭和39年		13,347	133	不明	不明
49		9,230	79	"	"
59		2,387	33	"	"
63	第7次 計 画 対 象 期 間	1,396	29	1,196	27
平成元年		1,275	26	1,131	21
2		1,103	28	950	22
3		1,034	29	855	27
4		946	22	832	13
計		5,754	134	4,964	110
5	第8次 計 画 対 象 期 間	826	16	691	14
6		735	15	641	15
7		672	20	578	19
8		590	28	488	20
9		589	17	464	14
計		3,412	96	2,862	82
10	第9次 計 画 対 象 期 間	463	19	358	12
11		411	10	330	7
12		388	11	315	10
13		406	18	331	12
14		389	15	308	15
計		2,057	73	1,642	56
15	第10次 計 画 対 象 期 間	348	12	254	9
16		334	10	230	9
17		323	11	231	8
18		298	14	196	11
19		307	9	198	8
計		1,610	56	1,109	45
20	第11次 計 画 対 象 期 間	290	9	204	9
21		228	10	147	7
22		219	5	159	5
23		245 363*	10	179	5
24		344*	5	156	4
計		1,444*	39	845	30
25	第12次 計 画 対 象 期 間	296	6	151	3
26		349	5	158	2
27		284	8	141	5
28		286	10	117	7
29		326	8	127	3
計		1,536	15	694	20
30(1-12月)	第13次	324	4	125	3

注) 1: 厚生労働省の死傷件数は労災保険給付データ及び労働者死傷病報告であったが、平成24年より労働者死傷病報告のみを用いている (\*印/前年との比較のため、平成23年も同様である。)。 2: 厚生労働省調べは集計時点の速報値 3: 昭和39年の休業災害は休業8日以上のもの。

## 労働災害（休業4日以上）発生状況（平成30年1～12月分）

### I 報告の概況

平成30年1～12月の間に全国の会員事業場で発生した休業4日以上死傷災害のうち、各総支部から報告があった125件（前年同期の127件と比較し、1.6%減小）について集計したものである。

### II 労働災害発生状況

#### 1 総支部別

報告のあった125件の状況は以下のとおり、8つの総支部で前年より増加している（表一1）。

表一1 総支部別

総支部	北海道	東北	日本海	千葉	東京	神奈川	東海	大阪	兵庫県	中国	四国	九州	沖縄	計
H26	6	6	17	2	11	39	27	12	18	3	1	12	4	158
H27	7	7	3	1	8	34	26	15	13	6	4	12	5	141
H28	4	1	8	0	6	18	26	14	15	1	2	19	3	117
H29	6	2	7	0	3	24	21	16	18	3	0	20	7	127
H30	5	4	10	3	2	26	22	9	14	5	1	22	2	125

#### 2 雇用形態別

雇用形態別の状況は以下のとおり、常用が約9割を占めている（表一2）。

表一2 雇用形態別

雇用形態	H26	H27	H28	H29	H30
常用	134	119	103	108	114
派遣					
日雇	24	22	14	19	11
計	158	141	117	127	125

### 3 年齢階層別

年齢階層別の状況は以下のとおり、30歳代が最も多い(表一三)。

表一三 年齢階層別

年齢階層	H26	H27	H28	H29	H30
30歳未満	31	35	26	25	18
30～39歳	37	33	26	24	36
40～49歳	39	36	28	36	27
50～59歳	30	22	26	29	28
60歳以上	21	15	11	13	16
計	158	141	117	127	125

### 4 月別

月別の状況は以下のとおり2月が最も多い(表一四)。

月	H26	H27	H28	H29	H30
1月	21	14	10	12	9
2月	13	11	12	9	14
3月	15	16	10	12	8
4月	14	11	5	6	13
5月	7	12	9	11	12
6月	15	14	11	7	7
7月	12	7	14	16	13
8月	8	12	9	11	8
9月	10	11	8	11	9
10月	14	11	13	11	11
11月	17	9	8	13	11
12月	12	13	8	8	10
計	158	141	117	127	125

## 5 曜日別

曜日別の状況は以下のとおり、木曜日が最も多い（表—5）。

表—5 曜日別

曜日	H26	H27	H28	H29	H30
日	7	7	7	2	12
月	29	22	22	25	11
火	26	22	21	17	23
水	28	24	21	26	20
木	22	25	19	25	26
金	25	25	19	21	19
土	21	16	8	11	14
計	158	141	117	127	125

## 6 時刻別

時刻別の状況は以下のとおり午前9時、10時、11時台が多い（表—6）。

表—6 時刻別

時刻(～ 時台)	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24- 4	計
H26	1	6	1	11	27	10	12	1	16	12	15	17	7	4	1	5	2	2	5	3	158
H27	0	1	2	9	18	14	10	2	12	14	18	13	6	4	3	5	2	1	6	1	141
H28	0	0	5	10	13	11	14	3	10	10	12	10	6	3	3	3	0	1	3	0	117
H28	0	0	5	10	13	11	14	3	10	10	12	10	6	3	3	3	0	1	3	0	117
H29	3	0	3	12	20	10	10	1	10	15	11	6	5	6	4	4	3	1	1	2	127
H30	0	2	1	9	18	18	17	0	8	9	13	3	5	1	1	3	3	6	2	6	125

## 7 業種別

業種別の状況は以下のとおり、沿岸と船内が多く、ほぼ同数となっている（表一七）。

表一七 業種別

年	船内	沿岸	はしけ等	検数等	関連	その他	計
H26	71	53	9	3	18	4	158
H27	59	56	3	3	14	6	141
H28	47	52	3	8	9	1	117
H29	43	64	1	0	11	7	127
H30	46	47	2	6	17	7	125

## 8 起因物別

起因物別の状況は以下のとおり、物揚げ装置が最も多く、次いで仮設物、建物等が多い。

（表一八）。

表一八 起因物別

起因物	H26	H27	H28	H29	H30
動力機械	2	4	4	3	2
物揚げ装置等	50	33	35	31	33
その他装置等	27	13	17	11	10
仮設物、建物等	33	31	24	19	32
物質、材料	3	13	2	7	7
荷	32	23	20	26	24
環境等	2	3	4	4	5
その他	9	14	11	26	12
計	158	141	117	127	125

## 9 作業職種別発生状況

作業職種別の状況は、作業者が最も多い（表一9）。

表一9 作業職種別

作業職種	H26	H27	H28	H29	H30
船内荷役作業主任者	1	4	5	2	3
フォアマン	2	1	2	1	1
沿岸荷役主任者				1	0
運転者	14	11	12	6	7
合図者	10	3	6	8	8
玉掛け者	14	18	17	12	8
検数員等	4	3	8	1	6
ラッシャー	14	18	10	6	9
清掃	2	1	1	1	0
作業者	92	74	54	81	80
その他	5	8	2	8	3
計	158	141	117	127	125

## 10 関連機械別（機種別）

災害発生に機械の運転が関連した87件の状況は以下のとおりフォークリフトが最も多い（表-10）。

表-10 関連機械別

関連機械	H26	H27	H28	H29	H30
揚貨装置	19	10	10	5	5
天井クレーン	1			2	1
ガントリークレーン	16	15	5	5	9
トランスファークレーン	1			2	1
移動式クレーン	14	19	9	9	9
フォークリフト	24	17	20	25	28
ストラルドキャリアー	3		1	0	2
ショベルローダー	2	2	4	1	2
ブルドーザー		1	1	0	1
フォークローダー			1	0	0
トレーラー	2	5	3	5	6
上記以外のクレーン	1		1	0	0
その他	18	20	12	24	23
計	101	89	67	78	87

## 1.1 経験年数別

経験年数別にみると、0～9年が58件で最も多くなっている（表-1.1）。

表-1.1 経験年数別

経験年数	平成26年	平成27年	H28	H29	H30
0～9年	71	74	54	62	58
1年未満	(15)	(15)	(12)	(18)	(16)
1～4年	(28)	(39)	(16)	(26)	(21)
5～9年	(28)	(20)	(26)	(18)	(21)
10～19年	39	28	23	29	35
20～29年	27	27	30	19	19
30年以上	18	12	10	17	12
不明	3				1
計	158	141	117	127	125

## 1.2 船型別

災害発生に船型が関連した73件の状況は以下のとおり、コンテナ船が多く、次いで在来船となっている（表-1.2）。

表-1.2 船型別

船型	H26	H27	H28	H29	H30
コンテナ船	31	32	27	23	29
RO/RO船	6	8	5	4	5
在来船	40	37	28	28	28
はしけ	11	5		1	1
その他	10	5	8	15	10
計	98	87	68	71	73



### 1.3 事業場規模別

事業場規模別にみると、50人未満の規模が最も多くなっている（表-13）。

表-13 事業場規模別

規模別	H26	H27	H28	H29	H30
1～49人	52	52	46	57	45
1～9人	(7)	(12)	(4)	(8)	(11)
10～29人	(28)	(17)	(27)	(22)	(18)
30～49人	(17)	(23)	(15)	(27)	(16)
50～99人	37	33	30	28	28
100～299人	61	45	33	33	43
300人以上	1	5	8	9	9
計	158	141	117	127	125

#### 14 品名(貨種)別

災害発生に品名(貨種)が関連した100件についての内訳は以下のとおり、鋼管・鋼材にかかる災害が多い(表-14)。

表-14 品名別

品名(貨種)	H26	H27	H28	H29	H30
原木	3	4	4	2	2
製材	4	2	2	3	2
合板	1	0	1	1	0
車	4	5	3	2	6
鋼管・鋼材	18	22	11	14	19
バナナ	4			0	1
くず鉄	2	2	1	1	0
冷凍魚	2		3	0	1
鉱石	2	1	2	1	2
石炭	2	4	1	1	2
チップ	3	2	3	0	4
雑貨類	3	3	4	3	6
原糖	2			1	0
飼料	1	1	1	1	1
ロール紙	1	1	1	0	4
穀物	3	3	1	5	3
その他	26	35	27	15	47
不明	31				
計	112	85	65	74	100

## 1.5 荷姿別

災害発生に荷姿が関連した100件についての状況は以下のとおり、コンテナが最も多く、次いで、ばら物等が続いている（表-15）。

表-15 荷姿別

荷姿	H26	H27	H28	H29	H30
素材「裸」	12	16	6	4	3
袋物	9	13	7	6	7
ボール	1	0	1	0	2
棒物	9	7	4	3	8
束物	7	7	9	11	8
ばら物	14	9	7	9	13
箱物	10	3	9	10	5
缶物	1	0	2	1	2
コンテナ	34	20	23	26	26
車	5	5	1	3	7
その他	17	11	12	17	19
計	119	91	81	90	100

## 1.6 事故の型別

事故の型別についてみると、多いのは、はさまれ・巻き込まれ、墜落・転落、転倒の順となっている（表-16）。

表-16 事故の型別

事故の型	H26	H27	H28	H29	H30
墜落、転落	42	48	36	34	34
転倒	18	9	18	15	20
激突	10	10	4	7	5
飛来、落下	21	14	14	7	10
崩壊、倒壊	3	3	1	5	3
激突され	15	8	10	9	6
はさまれ、巻き込まれ	33	35	22	35	35
切れ・こすれ	2	4	0		1
交通事故・火災等			2	0	0
動作の反動等	13	8	1	11	7
その他	1	2	8	3	4
計	158	141	117	127	125